

校長だより【89】 おーいお茶 & 文芸コンクール 40228



お知らせがずいぶん遅くなってしまいましたが「**第32回伊藤園おーいお茶新俳句大賞**」で東高が『**団体応募賞**』を受賞いたしました。

現役生徒 8名卒業生 2名の合計 10名が『**佳作**』に、そして先生 1名が、『**佳作特別賞**』に入賞しました。205万7,963句の応募作品から選ばれました。団体応募賞の副賞として、学校名が掲載された特別限定生産のお茶が届けられました！ こちら↓です。



以下は、お〜いお茶新俳句大賞『佳作』に選ばれた10人の生徒たちの作品です。

(応募当時 16~18才でした。)

- | | |
|----------|--------------------|
| 赤松 那奈さん | 「太陽と重なるボール地には汗」 |
| 安居院 未聖さん | 「年初めいつも通りの大寝坊」 |
| 後 美優さん | 「おでんからたくさんはずむ会話かな」 |
| 宮本 杏彩さん | 「冬日射す教室の端特等席」 |
| 芝田 幸太さん | 「深呼吸高鳴る鼓動初電話」 |
| 中野 夏希さん | 「狐鳴くコタツに入れてやりたいな」 |
| 小糸 優愛美さん | 「弓道場今年で最後の冬景色」 |
| 服部 真紘さん | 「隣人の箒持ち出す枯葉かな」 |
| 佐藤 暖華さん | 「冬帝の怒り激しく降る曇」 |
| 古賀 凌平さん | 「外では人内ではペンが持久走」 |

そして『佳作特別賞』に選ばれた木目田美咲先生の作品はこちらです。

「初電話乱反射せし喃語かな」

喃語（なんご）とは赤ちゃんが言葉を習得する前段階の過程で発する「ばぶばぶ〜」のような意味のない発声のことです。家庭科の保育の授業で習いましたね！ 声帯の使い方や母語で発声される音を学習しているものです。

この句は、お子さんが生まれた産休・育休中の同僚の先生のおうちに電話をかけた時のエピソードだそうです。電話の向こうの赤ちゃんの愛らしい声と、赤ちゃんを囲むご家族のほほえましい様子が目に浮かぶようです。



校長だより【76】号でも朝日新聞社主催の平和への思いを詠んだ「八月の歌短歌コンクール」の優秀賞等の受賞についてお伝えしましたが、東高国語科では、短歌・俳句にとっても力を入れて取り組んでいます。（第【57】・【46】号もぜひご参照ください。）

さて今年度は、**神奈川県高等学校文化連盟の総合文化祭の文芸コンクール**に於いても、輝かしい成績をあげました。ご紹介します。

1 番です！

教育長賞（優秀賞） 3年 中川 祥大さん
「霜柱土のうめきの聞こえけり」

高文連会長賞（優秀賞） 3年 竹松 虎之介さん
「烈々と空に根をはる冬の雷」

高文連会長賞（優良賞） 3年 田中 数馬さん
「道場の足をつき刺す寒さかな」

高文連会長賞（優良賞） 2年 加藤 心寧さん
「坂道に踏み込むペダル金木犀」

高文連会長賞（優良賞） 3年 赤松 那奈さん
「サイダーの無数の泡にとびこみたい」

佳作 2年 森田 舞乃さん

「報われぬ恋でもいいか黄水仙」

佳作 2年 大貫 友優さん

「鈴虫の音とシンクロす草の揺れ」

佳作 2年 阿部 未鳩さん

「オンライン授業窓辺に金木犀」

佳作 3年 島津 元樹さん

「お祭りの音頭聞こえる田んぼ道」

部活動や通学路、恋あり、青春あり、作者の皆さんのキラッキラの高校生活が垣間見える素晴らしい作品群でした。

これらの作品は、本校国語科非常勤講師河合聖教諭の麗しき筆にて短冊に記され、職員玄関ほか、校内各所に展示してあります。ご来校の際にはぜひご覧ください。

